

令和7年度 学校評価報告書

丹波篠山市立西紀北小学校
校長 高見 成幸

1 学校教育目標等

一人一人が輝き ころ豊かで たくましい 北っ子の育成
～ふるさと草山で 未来に咲く花を育む～

2 今年度の重点目標

- 確かな学力の育成。基礎基本の確実な定着と思考力・判断力・表現力の向上
- 豊かな心の育成。自他の命を大切にす心や「自分の命は自分で守る」意識培う。
- 健やかな体の育成。「体育発表会」「なわとび記録会」等を通して、体力・気力・運動能力の向上を図る。
- 「ふるさと草山」が大好きで、地域に貢献しようとする意欲を育成する。

3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学習指導	基礎・基本の定着	A	「授業がわかりやすい」と回答した児童は92%、「学習した読み・書き・計算ができますか」で肯定的な回答をした児童は96%。算数科の授業を中心に、自分の考えを発表したり、分からないことをおたずねしたりしながら主体的・対話的に学び、その学びを深めていく姿が見られるようになっている。
	学習形態・指導方法の工夫改善	B	「授業で先生や友だちにおたずねができる」と回答した児童は88%、「授業で先生の話や友だちの意見をしっかり聞いている」と回答した児童が92%。進んで発表する姿勢もかなり見られるようになっている。次年度以降も北っ子式算数等の取り組みを継続して、児童の主体的な学びや学力向上に努めていく。
	学びの発信・コミュニケーション力の向上	A	11月の学習発表会では、1・2年は国語劇、3～6年は総合的な学習の時間の取組を発表した。多くの保護者や地域の方に、学習の成果を堂々と表現できた。 昨年度の5・6年生が「地域の課題解決」をテーマに取り組んだ実践が、「ふるさとひょうごSDGsスクールアワード2025」小学校部門において、最優秀賞に選出された。自らの学びを保護者や地域に発信する力が高く評価されたことは、児童にとって大きな自信と誇りにつながった。
生徒指導	基本的生活習慣の定着	C	あいさつは92%の児童ができていると回答したが、大きな声で気持ちの良いあいさつができている児童は少ないと感じる。今後、「自分も相手も元気になるあいさつ」の大切さを伝えていくとともに、地域・家庭と手を取り合いながら「あいさつの輪」を広げていきたい。 基本的生活習慣については概ね良好であるが、家庭でのゲーム利用時間の長期化に伴い、就寝時刻が遅くなっている児童の存在が課題となっている。今後は、授業や育友会主催の学習会等を通じ、親子で生活リズムを見直すきっかけとなるような、啓発活動を模索していく。

	児童理解と組織的な対応 外部関係機関との連携	B	遅刻傾向や不登校児童に対して、学校、保護者、関係機関が連携し、個々の状況に応じた支援に努めた結果、前年度と比較して遅刻回数の減少や登校日数の増加といった改善が見られた。その他の生徒指導面では未然防止を徹底し、重大な事案の発生を抑止できた。
地域とともにある学校づくり	学校運営協議会・保護者との連携	A	1月に開催した「北っ子広場」では、学校運営協議会の主催による「和太鼓演奏会」を企画していただいた。その他、ふるさと学習における地域講師との橋渡しなど、委員の皆様には学校教育の推進に多大なるお力添えをいただいた。
	地域人材の活用とふるさと教育	A	低学年「たけのこ掘り」、中学年「ビーンズサワー復活」、高学年「地域のお店の課題解決」等、各学年が地域の教育資源を存分に活用した教育活動を展開し、草山の魅力を再発見することができた。今後も「ふるさと草山」への愛着を深め、地域に貢献しようとする意欲を育てていく。

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

<ul style="list-style-type: none"> 6月の第1回学校運営協議会にて授業を参観しました。どの学年も落ち着いた雰囲気の中で、一生懸命に学習に取り組む姿が印象的でした。また、「体育発表会」や「ふれあい運動会」などの学校行事においても、子どもたちが生き生きと活動しており、「みんなで協力してやり遂げよう」という姿勢が印象的でした。

(2) 総合的な評価（意見・感想）

<ul style="list-style-type: none"> 1月の「北っ子広場」では、子ども、保護者、地域住民が出店を大いに楽しんでいました。音楽鑑賞会の和太鼓演奏においても、鑑賞に留まらず実際に太鼓を叩く体験もできました。学校運営協議会の参画により、子どもも大人も楽しめる充実した会にすることができてよかった。 「学校は楽しいですか」で否定的な回答をした子どもがおり気になる。学習面や人間関係など一人一人の悩みや不安を把握し困り感を無くしていくことで、安心して過ごせる学校づくり、学級づくりにこれからも取り組んでもらいたい。
--

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果から表現力に課題があるようだが、「ふるさとひょうごSDGsスクールアワード2025」での最優秀賞は、がんばりが結果に表れ、自信にも繋がったと思う。それが下学年にも伝わって、さらに頑張ろうとなると思う。今後も表現力の向上に向けて取り組みをさらに進めてもらいたい。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器は、これから生きていく中では絶対に必要なものでもあると思うので、制限というよりうまく付き合っていく必要があると思う。家庭の意識、環境づくりというのも大事だと思うので、引き続き粘り強く啓発を続けていく必要がある。 最近、電話で警察を装った詐欺が本当に増えている。子どもたちも電話を取る機会があると思うので、他人事ではなく、子どもたちとも危機感を共有してほしい。 個別の衛生面上の課題については、本来家庭での対応が主である。学校は関係機関と連携して改善に努めているようだが、学校の範疇ではないと正直思う。
地域とともにある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 本年度も、学校運営協議会委員が「ふるさと教育」の講師で教育活動に参加することができた。子どもたちが生き生きと活動する様子を見ることができてよかった。 薬物もそうだが、子どもたちが困った時に、「困った。助けて。」と言えることが大切である。学校、家庭、そして地域でもそのような関係を築いていくことが大切。